

京都大学フィールド科学教育研究センター徳山試験地の檜皮実験林で伐採が行われました。

2013.1.22

試験地内のヒノキ林は文化庁によって「ふるさと文化財の森」に指定されています。（この指定は、文化財建造物を修理し後世に伝えていくために必要な木材などの確保と、技能者を育成することを目的に行われています。）

試験地内の「檜皮実験林」では、檜皮の採取が生立木の成長や材質に及ぼす影響について継続調査が行われています。今回は、昭和2年に植樹した樹齢80年を超えるヒノキを6本伐採し調査を行いました。この調査は、文化庁による文化財修復用資材確保のための調査・研究にも協力しながら、全国大学演習林協議会が取り組む基礎的研究のために実施されている重要なものです。



↑木の幅や皮の厚さを測定中

←試験試料は関係機関に送られ
分析されます